

科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日	科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日
公共経済論Ⅱ	<春>		ECON2545	金1					

【教員氏名】

西崎 勝彦

- ・研究室：聖アンデレ館11階1126号室
- ・オフィスアワー：火曜5時限（その他の時間帯でも空いていれば対応可能）
- ・メールアドレス：ka-nishi@andrew.ac.jp

【単位数】

2 単位

【授業形態】

『講義』

【講義・演習概要】

市場経済では財・サービスは基本的に市場で取引され、市場を通じて財・サービスが消費・分配・生産される。市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが、市場は万能ではなく、ときに「失敗」することもある（例、規模の利益による自然独占）。また、市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが、価格がうまく決まらない財・サービス（例、公共財）は市場での取引が難しい。こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの消費・分配・生産を分析するための学問が公共経済学である。この授業では公共経済学の基礎について説明し、それに基づいて市場経済における公共部門の役割について考える。

この授業では、同じ学期に開講予定の「公共経済論Ⅰ」の内容は理解しているものとして、そこで扱わないテーマ（投票、費用・便益分析、課税・公債発行、自然独占、公共料金規制、公共投資、社会保障、地方分権）について説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として出席者に配布する）。また、毎回の授業の残り20分ほどで課題に取り組んでもらい、その成果物（レポート）を提出してもらい（毎回の授業の最初に前回の課題を解説する）。

【学習（到達）目標】

- (1) 公共部門の意思決定の仕組みを理解する。
- (2) 公益事業の成立とそれへの規制を理解する。
- (3) 公共投資が社会に与える影響を理解する。
- (4) 高齢化社会における公共部門の役割を理解する。
- (5) 地方分権の意義を理解する。

【講義・演習計画】

第1回：公共経済学とは（ガイダンス）

第2回：社会的決定

第3回：社会的費用・便益分析

第4回：税と公債

第5回：規模の利益と自然独占

第6回：自然独占と競争

第7回：公的企業と料金規制

第8回：私的企業と料金規制

第9回：社会資本と公共投資

第10回：地域格差と公共投資

第11回：所得再分配政策と社会保障

第12回：高齢化と公共交通

第13回：地方分権

第14回：公共経済学の展開

第15回：試験および総括

【成績評価の方法】

試験評価：80% レポート：20%

【テキスト】

奥野信宏：『公共経済学』（岩波書店）

本書に基づいてスライドを作成し、それを授業資料として出席者に配布する。本書で不足している部分については、参考文献をもとに適宜補足する。

【参考文献】

緒方隆、須賀晃一、三浦功 [編] (2006) 『公共経済学』 勁草書房

岸本哲也、入谷純 [編] (1998) 『公共経済学』 八千代出版

ジョセフ・E・スティグリッツ/敷下史郎 [訳] (2003) 『公共経済学』 東洋経済新報社

須賀晃一 [編] (2014) 『公共経済学講義—理論から政策へ—』 有斐閣

常木淳 (2002) 『公共経済学 第2版』 新世社

土居丈朗 (2018) 『入門公共経済学 第2版』 日本評論社

【事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 事後学習 30 時間）】

テキストに掲載されている練習問題に取り組むなどして、問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい。

【その他備考（担当教員用）】

- (1) 授業の進捗状況によって授業計画を変更する場合がある。
- (2) スライドは授業の要点をまとめたものであり、内容を十分に理解するためには、配布した授業資料を参考にテキストを熟読することを勧める。
- (3) 毎回の課題は試験勉強を兼ねているため、それを意識して取り組んでもらいたい。
- (4) 「ミクロ経済学」を履修していることが望ましい。
- (5) この授業では公共経済学の基本的な考え方を理解している履修生を想定している（「公共経済論Ⅱ」は同じ学期に開講予定の「公共経済論Ⅰ」の内容を前提として展開する）。

【備考（管理者用）】

（旧：公共経済論 2～1生読替（E・CBCC・J生のみ）